

『アドヴァンスサロン』一九八三年一月（ADE研究会）

## 《巻頭寸言》 節約の伸びは生活のレベルアップ

矢口 新

昭和五八年度予算が超緊縮型になりそうである。その中で防衛費の5.1%の伸びが異状である。危険な感じもするが、その事は言うまい。福祉文教は大幅切り詰めで、防衛の伸びに対して文句を言いたい人は多かるう。

が私の言いたいことは、そういう予算の構造の問題でない。これまで予算は毎年伸びるものというのが常識であったから、実質規模減少というのはショックかも知れないが、私はここで節約ということをおわれわれの生活の全面に考えてみたらと思う。今の水ぶくれの経済、水ぶくれの生活をしまりのある生活にするよいチャンスだと考えるわけにはゆかないのか。本当に実のある生活をすると目標で生活を見なおすのである。

節約の伸びというと、まずエネルギーの節約というのが真先に来るが、そればかりでなくもうすこし節約の範囲をひろげるのである。人間は惰性の動物だといってもよいかもしれない。今われわれのもっている生活のレベルはなかなか落せない。それはくせがついてしまっているからである。なんの気なしにやっていたら、それをひとつひとつ自覚してむだではないか、節約できないかと考えながらやると、意外にむだが多いことに気付くのである。それは工夫によって生活の仕方を合理的にすることだから、生活のレベルが実際はあがることなのだ。仲間でするということを考えるのは楽しいことである。